



自ら立ち ともに 未来を拓く生徒

新川西中学校だより

令和6年度特別号

3月24日(月)

新川西中HP

HP アドレス : <https://www.shinkawanishi-j.sapporo-c.ed.jp/>

令和6年度の教育活動を振り返って

札幌市では、平成22年度から、すべての市立学校が、自校の教育活動や学校運営に関し、主体的に責任をもって改善に努めるため「学校評価」を実施すると共に、その内容を保護者や地域住民の皆様にしつかりと説明し、理解と参加を得ながら教育を進める事となっています。このたび、今年度の「学校評価」がまとまりましたので、お知らせいたします。例年同様、生徒、保護者、本校教職員の三者を対象にアンケートを実施し、その結果を踏まえつつ、校内で振り返りを行い「自己評価」をまとめ、過日、その内容について、学校評議員の皆様にご協議いただき、以下の通り「学校関係者評価」をまとめました。

◎「令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書」

1 学校教育目標（保護者・地域との約束）						
自ら立ち ともに 未来を拓く生徒						
2 本年度の学校経営方針（スローガン）・重点目標						
生徒の声を聴き、誰一人残すことなく「自分が大切にされている」と実感できる学校へ ○「人間尊重の教育」の徹底による学校づくり ○知・徳・体の調和のとれた学びの推進 ○社会に開かれた教育課程実施に向けた環境整備						
3 自己評価結果に対する学校関係者評価						
分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校経営スローガン	経営方針	生徒の声を聴き、誰一人取り残すことなく「自分が大切にされている」と実感できる学校経営を進めている	A	ほぼ9割の生徒・保護者が肯定的評価をしており、教職員の高い自己評価と合わせ、経営方針の共通理解の下、日々の教育活動を進めることができたと判断できる。今後は、残り1割の生徒への支援が課題であり、より幅広い柔軟な対応についての検討を進めていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・よりきめ細かに生徒の話を聞いたり、校内に通常の教室とは違う居場所（サードプレイス）を確保し充実を図ったりするなど、残り1割の生徒に対する具体的対策について検討し、次年度、できるところから取り組んでほしい。 ・生徒の声を聴く前が、教員のみではなく、例えば、新川高校の生徒によるピアサポートなど、中高連携事業として工夫できることもあると思うので、検討してほしい。				
「人間尊重の教育」の徹底による学校づくり	学ぶ意欲	学習活動では、教員が生徒を「育てる」から、生徒が自ら「育つ」取組へと転換を図っている	A	肯定的評価が、生徒7割超、教職員7割に対し、保護者は6割未満と差がある。日々、校内では主体的な学びが展開されているにもかかわらず、その姿が保護者に十分に伝わっていないことが懸念される。今後は、より一層、生徒の学びの実態を保護者と共有できる機会を創出するよう努めていく。	A	A
	人間関係	人間関係では、自己肯定感・自己有用感を高める取組を進めて、「相互承認」の態度向上を図っている	A	肯定的評価が、生徒91%、保護者87%、教職員96%と、三者とも同様に高く、学校経営スローガンの共有化が具体的な実践に結び付いていると判断できる。今後は、残り9%の生徒に対する有効な支援についての検討を進めていく。	A	A
	いじめ対策 多様性重視	学習環境では、同質性重視から多様性重視への転換を図るとともに、徹底したいじめ防止対策の取組を進め、全ての生徒にとって安心・安全な学校空間を創出している	B	肯定的評価の教職員が93%に対し、生徒は66%、保護者は78%と差がある。学校としては、本目標に対し重点的に取り組んでいるつもりであるが、現状は遅まきであるとして判断する。今後は、より一層、生徒の声を聴くなどしながら、安心・安全な学校空間の創出に必要なことを検討し、できることから取組を進めていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・生徒の学びの実態を共有できる機会としては、授業参観が有効だと思うが、まずは、より多くの保護者に学校へ来てもらうことが大切。そのためには、学校に来ることで、何かいいことがあると保護者が感じられるような工夫を期待したい。 ・安心・安全な学校空間の創出に関しては、その前提として、まずは自分自身の命を守ることが最優先という認識の共有化を図ることが必要であり、「逃げることは悪いことではない」という考え方を大切にしてほしい。				
「知・徳・体の調和のとれた学びの推進	学ぶ力の育成	学ぶ力では、「課題探究的な学習」と「さっぽろっ子自治的な活動」を軸とした取組を通して、生徒を主体的な学習者へと育成している	A	肯定的評価が、生徒66%、保護者84%に対し、教職員73%と、若干低いが、主体的な学習者の育成に向けた取組の成果は上がっているものと判断できる。今後は、より多くの教職員が、相互に学び合い、取組を工夫するなどとして、さらなる成果を目指していく。	A	A
	豊かな心の育成	豊かな心では、発達支持的生徒指導の重視と命を大切に教育を徹底し、自尊感情の育成を図っている	A	肯定的評価が、教職員96%、保護者96%に対し、生徒は77%と、若干、低い結果となっている。毎朝、目標は達成されているものの、一部生徒においては、教職員の支援とのミスマッチが生じている懸念がある。今後は、チャットログや教育相談も活用しつつ、より一層、個に応じたきめ細かな生徒支援に努めていく。	A	A
	健やかな体の育成	健やかな体では、生徒主体による楽しい運動会への参加を図っている	A	肯定的評価が生徒、保護者共に8割超に対し、教職員は6割未満となっている。意欲的な教職員の取組により、一定の成果は上がっているものと判断できるが、この状況を維持する意味でも、今後は、現在の取組の有効性を教職員全体で共有化し、各自、必要な役割を果たすよう努めていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・学ぶ力の育成に関しては、引き続き、教員同士の学び合いの成果を期待したい。 ・豊かな心の育成に関しては、チャットログの積極的な活用も必要と思うが、日常的な教員のきめ細かな声かけや見守りによる働きかけを期待したい。ただ、そのためには、教員が余裕をもって生徒に向き合えるための働き方改革が必要である。 ・西中の生徒はみんな素直で、挨拶もよくできる。この伝統をこれからも大切に引き継いでほしい。				
「社会に開かれた教育課程」実施に向けた環境整備	小中連携	小中一貫した教育を前進させた異校種間連携の取組を通して、コミュニティ・スクール移行に向けた準備を確実に進めている	B	肯定的評価が、生徒58%、保護者69%、教職員36%と、いずれも低い結果となっている。教職員の取組が課題の一つと判断できる。今後は、これからの取組の進め方について共通理解を図ると共に、できることから具体的な取組を進めていく。	A	A
	働き方改革	教職員の働き方改革に関しては、取組を推進し、教職員の質向上を図っている	B	本校教職員は研究熱心であるとの肯定的評価が、生徒、保護者とも9割近いのに対し、教職員は2割未満と極端に低い。現状、良好な教育環境は維持されているものの、その背景には教職員の余裕がない過重勤務があることと判断できる。今後は、生徒や保護者の理解を得つつ、より一層、教職員の働き方改革に係る取組を進め、良好な教育環境を持続可能なものとしていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・小中連携については、次年度以降、是非とも積極的に取り組んでほしい。そのためには、小中の教職員が相互に相手を知り、信頼関係を築くことができるよう、より深い交流機会の工夫を期待したい。 ・働き方改革に関しては、例えば、休憩時間を確実に取れる体制を整備し、取組を推進し、教職員の質向上を図っている。また、社会人の働く姿を正しく理解するといった教育的効果も期待したい。単に現在の課題解決の観点からのみではなく、未来の教育を担う人材を育成する観点からも、確実に取り組んでほしい。				

◎保護者アンケート集計結果

このたびの学校評価に際し実施した保護者アンケートにつきましては、ほぼ半数のご家庭から回答をいただきました。お忙しい中でのご協力ありがとうございました。また、具体的なお意見、ご要望もいくつかお寄せいただきました。全体に関わる主なものについて、以下の通りお知らせすると共に、個人的なものも含め、今後の本校の教育活動や学校運営に活用させていただきます。なお、何かご不明な点がございましたら、担当までお問い合わせください。

新川西中学校 担当 市川 (Tel 011-764-1617)

学校経営の重点項目	具体的目標	保護者アンケート文言	そう思う・少し思うの割合	回答の割合 (%)			
				そう思う	少し思う	どちらでもない	そう思わない
学校経営スローガン	生徒の声を聞き、誰一人取り残すことなく「自分が大切にされている」と実感できる学校へ	我が子は、西中の先生方によく話を聞いてもらい、自分は大切にされていると実感していると思う	89.4%	52.4%	37.0%	8.2%	2.4%
「人間尊重の教育」の徹底による学校づくり	学習活動では、教員が生徒を「育てる」から、生徒が自ら「育つ」取組へと転換を図ります	我が子は、人に言われなくても家庭学習に取り組むなど、西中での学びを通して自ら成長しようとしている	57.9%	27.8%	30.1%	23.9%	18.2%
	人間関係では、自己肯定感・自己有用感を高める取組を通して、「相互承認」の態度向上を図ります	我が子は、西中生活を通して、自分のよさや、自分が人の役に立っていると思いが高まり、周囲の人を大切にしようとするよう成長している	86.9%	32.0%	54.9%	9.7%	3.4%
	学校環境では、同質性重視から多様性重視への転換を図るとともに、徹底したいいじめ防止対策の取組等を進め、全ての生徒にとって安心・安全な学校空間を創出します	我が子にとって西中は、いじめ防止対策が徹底されているなど、安心・安全で居心地のいい場所になっていると思う	78.2%	33.2%	45.0%	16.3%	5.4%
「知・徳・体の調和のとれた学び」の推進	学ぶ力では、「課題探究的な学習」と「さっぽろっ子自治的な活動」を両輪とした取組を通して、生徒を主体的な学習者へと育成します	我が子は、興味をもって授業に参加したり、行事に率先して関わったりするなど、前向きで楽しい西中生活を送っていると思う	83.6%	43.0%	40.6%	10.6%	5.8%
	豊かな心では、発達支持的生徒指導の重視と命を大切に教育を徹底し、自尊感情の育成を図ります	我が子は、先生方から声をかけてもらったり、見守ったりしてもらい、自分のことを大切にすることが高まってきていると思う	85.8%	40.7%	45.1%	9.8%	4.4%
	健やかな体では、生徒主体による楽しい運動機会の創出を図ります	我が子は、西中で、楽しく運動する機会に恵まれていると思う	82.8%	44.6%	38.2%	13.2%	3.9%
「社会に開かれた教育課程」実施に向けた環境整備	小中一貫した教育を前進させた異校種間連携の取組を通して、コミュニティ・スクール移行に向けた準備を確実に進めます	我が子は、西中生活の中で、新川小・新光小・新川高校とのつながりを感じ、一緒に活動に取り組んだことがあると思う	68.8%	23.1%	45.7%	19.6%	11.6%
	教職員の働き方改革に関しては、敢えて生徒に向き合わない時間を創出するなどして、研究環境を整備し、教職員の資質向上を図ります	西中の先生方は、我が子を含め生徒たちのことを考え、よりよい授業や学校生活となるよう、日々、熱心に研究していると思う	88.6%	51.0%	37.6%	8.4%	3.0%

◎主なご意見・ご要望及び、学校の考え

□特に冬季間のバス通学の混雑や遅延等に対する改善を望みます。

⇒本校特有の課題と認識し、引き続き小学校と連携しつつ、可能な限り混乱のないよう努めます。

□地域の小学校や高校との更なる交流を望みます。⇒次年度以降、より一層進めてまいります。

□三者懇談の充実を望みます。⇒懇談期間外でも相談可能ですので、適宜、ご相談ください。

□より具体的にイメージできるような進路指導の充実を望みます。⇒日常的に取り組んでいきます。

□感染症の発生状況を把握したい。⇒必要に応じて、すぐー等を活用し注意喚起してまいります。

□本人から授業の話題が出てこないのが不安。⇒ご心配な点があれば、随時、担任にご相談ください。

□冬季、スカート着用時の防寒が心配。

⇒学校では暖房による適宜管理に努めますが、タイツ等の着用による自己管理もお願いいたします。

□部活動予定の確定と周知を迅速に願う。⇒善処しますが、急な変更もありうることをご理解ください。